

## 「作る楽しさが、誰かの喜びに」 to-no-te さんが紡ぐ陶芸の世界

### 寒

い冬も終わりに近付  
き、暖かい春の気配  
が感じられるようになって  
きましたね。今月号の「えー  
る!」では、3月2日まで  
渋川の子たぬきのパンギャ  
ラリーで陶器雑貨の個展を  
開催していた、鹿野在住の  
to-no-te さんをご紹介します。  
ます。

本名と「私の手」という  
意味を込めてこの名前で活  
動するto-no-teさんは、  
友人がかの陶芸教室に参加  
していることをきっかけに  
平成28年から陶芸を始めま  
した。

陶芸とは自分を表現する  
方法のひとつだと考え、自  
分が作りたいもの、やって  
みたいことを形にしている  
……そう語るto-no-teさ  
んは、お皿やカップ、オブ  
ジェなど、さまざまな作品  
を制作されています。

ふる里マルシェかのや、  
KANOかくれがマルシェ  
をはじめ、市内のマルシェ  
イベントで作品を販売され  
ています。イベントに立ち  
寄ったときは、to-no-te

さんが参加されていないか  
探してみてくださいね。

to-no-teさんに、陶芸  
に向き合う思いを問うと、  
それは「自分が楽しんで作  
ることなのだ」と語ります。  
「自分が楽しんで作るから  
こそ、誰かに届くものだと  
思います。私の手で作った  
ものを、誰かが気に入って  
くれることに、嬉しさを感じ  
ます」

まずは自分が楽しむこと  
を忘れず、陶芸に向き合う。  
その思いがあるからこそ

誰かの喜びにつながってい  
くんですね。

「陶芸は終わりがなく、果  
てしないものだと思います。  
作り出せる物も無限に  
ありますから、常に新しい  
ものに挑戦できます。かの  
陶芸教室をはじめ、さまざ  
まな方のおかげで活動でき  
ていることに感謝してい  
ます」

陶芸への思いと、周囲へ  
の感謝を語っていただいた  
to-no-teさんの活動に、  
心からエールを送ります!





# 個展を のぞいて



今の自分が作ったものを見てもらいたい……そんなテーマで開催された個展をうかがいました。

子たぬきのパンギャラリーでの個展は、今回が2回目になります。土壁と木でできたあたたかみのあるギャラリーには、to-no-teさんがディスプレイしたお皿やカップ、指輪、お雛様のオブジェなどが並べられています。

同じ土から生み出された陶器は、ギャラリーの雰囲気にもぴったりです！



会場に置かれたメッセージノートを見ると、「あたたかい空間に感謝します」「かわいい」「とても素敵でした！」「やっと直接作品を見て触れることができました」「1点1点からあたたかみと愛情が伝わってきます」

……と、たくさんの感想が並んでいました。

個展を訪れた皆さんが、to-no-teさんの作品と雰囲気をととても楽しんでいることを感じました！

写真撮影をしながら、じっくりと作品を鑑賞しました。

大量生産される製品にはない、手作りで、ひとつとして同じ形のない作品たち。定規で引いたような曲線ではなく、「人の手」が作り出した曲線だからこそ、見ていてあたたかい気持ちになるのだと感じます。

to-no-teさんは、4月以降も、周南地域の各地で出店を予定されています。その時々から、to-no-teさんの思いを感じてみてくださいね。

to-no-teさんの活動は、  
Instagramでも確認する  
ことができます。

